

『ゲノムと生態系をつなぐ進化研究－環境変動・集団履歴・適応』

2009年12月7日（月） ～ 2009年12月9日（水）

場所：プチホテル ゾンタック（上田市菅平高原、JR 上田駅からバスで1時間）

<http://sonntag.jp/>

京大大学生態学研究センター全国共同利用事業 公募研究会

共催：筑波大学 次代を担う若手大学人育成イニシアティブ

オーガナイザー 田中健太（筑波大学菅平高原実験センター）

<目的および内容>

分子手法の爆発的進歩と情報蓄積、ゲノムワイドな情報を活用する集団・量的遺伝学的理論の発展により、(1) 野外で見られる表現型変異の遺伝的背景、(2) 集団サイズ変化・遺伝子流動・自然選択などの集団履歴、が分かるようになってきた。ここに、環境の時空間変動の中での表現型機能と適応度という生態学が扱ってきた情報を重ねることで、変異・選択・遺伝という進化の三要素に正面から取り組める。また、これまで生態学の最適戦略理論で扱ってこなかった遺伝体制、表現型相関、突然変異バイアス、遺伝分散の供給・枯渇バランスなどの遺伝的制約を考慮することで、進化の方向・速度とその規定条件についての理解が飛躍的に高まるだろう。このワークショップでは、最新の研究成果と方法革新の情報を共有し、異分野間の共同を模索することで、細分化した生物学を野外生態系をキーワードに再統合する機運を盛り上げ、国内の関連分野の発展に資したい。

<日程>

12月7日（月） 13時～18時 講義：コアレセント理論とDNAが語るエコロジー

12月8日（火） 研究発表

12月9日（水） 研究発表 ～17時